

スーパーグローバル大学創成支援事業
令和2年度実施中間評価に係る基本的方針（改正案）

令和元年12月2日

文部科学省高等教育局高等教育国際戦略プロジェクトチーム

改正 令和2年3月2日

国際化拠点整備事業費補助金（以下、「補助金」という。）により実施される「スーパーグローバル大学創成支援事業」（以下、「本プログラム」という。）の中間評価は、同基本的方針を踏まえ、スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会（以下、「委員会」という。）において決定する中間評価要項に基づき、実施する。

1. 評価の目的

本プログラムに採択され、徹底した「大学改革」と「国際化」を断行し世界的に魅力的なトップレベルの教育研究を行う大学や、我が国社会の国際化を牽引する大学による各事業の取組状況等を評価するとともに、事業目的が十分達成されるよう助言を行うことで、事業の適切かつ効果的な実施を促す。

2. 評価の時期

令和2年度に中間評価を実施する。

3. 評価の対象年度

原則として令和元年度末までの取組状況を対象とする。

なお、令和2年度の取組状況のうち、大学が積極的に調書に記載する実績については、その提出時までの実績を評価の対象とする。

4. 評価の体制

委員会の下に、有識者からなる評価部会を設置し、中間評価を実施する。

5. 評価の実施

各事業の進捗状況や目標の達成状況等について、実効性のある評価を実施するために、評価の項目や実施方法等は次のとおりとする。

（I）評価項目

（1）項目別評価

1. 取組状況

これまでの取組状況について、アウトカム（アウトプットがもたらす状況の変化、人の行動変容、その他成果）と関連付けて、事業の成果又は発展への課題等の評価を行う。

2. 目標の達成状況

各大学のロジックモデル〔各大学の構想（事業目的）の実現に至るまでの因果関係の仮説を体系的に図示したモデル図〕における初期アウトカムと関連付けて評価を行う。その際、既に中・長期アウトカムが得られていることが認められる場合は加点の対象とする。

なお、①成果指標と達成目標に関して、大学が選択していない項目については各数値のフォローアップを行うこととし、評価の対象にはしない。

3. 財政支援期間終了後を見据えた自走化

補助金による支援終了後を見据えた自走化の計画の内容及び進捗状況について、中・長期アウトカムと関連付けて、①徹底した「大学改革」と「国際化」の断行による大学の体制や組織文化そのものの国際通用性の強化及び大学の国際競争力の向上と、②財政支援期間終了後を見据えた財源確保の2つの観点から評価を行う。

4. 経費（補助金等）の使用状況

1. 取組状況、2. 目標の達成状況については、経費（補助金等）が適切かつ効果的に使用されたか、投入された補助金額に比して十分な取組が行われたか、また、3. 財政支援期間終了後を見据えた自走化の計画の進捗状況については、経費の使用状況を考慮の上、評価を行う。

(2) 総括評価

「(I) 項目別評価」における評価結果を踏まえ、各事業の実績の全体について評価を行う。

(II) 評価方法

委員会の下に設置される評価部会において書面評価※及び面接評価、並びに必要に応じて現地調査を行い、その結果に基づき合議評価を実施する。

評価部会は、審査結果及び平成29年度中間評価結果等も活用し、評価対象に応じた適切な方法により、評価目的が達成されるよう、中立・公正かつ効率的・効果的な評価を行う。

※書面評価の評価資料として、公募要領に示す構想等の実施状況についての独自の評価（外部有識者で構成する委員会による評価結果等）の結果を含めるものとする。

令和2年度実施中間評価に係る基本的方針案（評価項目）

令和2年3月2日改正

大学が作成したロジックモデルを参考に、アウトカム（※）と関連付けて、事業の実績及び自走化について評価を行う。

I. 項目別評価

1. 取組状況

以下の項目ごとに、**アウトカムと関連付けて**、事業の成果又は発展への課題等の評価を行う。

- ① 構想の実施状況（補正後の構想について評価）
- ② 構想実現のための体制構築
- ③ 平成29年度中間評価留意事項への対応
- ④ 国際的評価の向上（タイプAのみ）
- ⑤ 国際的評価に関する教育・研究力（タイプAのみ）
- ⑥ 大学の特性を踏まえた特徴（タイプBのみ）

2. 目標の達成状況

以下の項目ごとに、**各大学のロジックモデル（※）における初期アウトカムと関連付けて**評価を行う。**中・長期アウトカムが得られていることが認められる場合は加点の対象とする。**大学が選択していない項目は、**各数値のフォローアップを行うこととし、評価の対象にはしない。**

- ① 成果指標と達成目標（共通項目、選択項目）
- ② 大学独自の成果指標と達成目標

3. 財政支援期間終了後を見据えた自走化

補助金による支援終了後を見据えた**自走化の計画の内容及び進捗状況**について、**中・長期アウトカムと関連付けて**、①徹底した「大学改革」と「国際化」の断行による大学の体制や組織文化そのものの国際通用性の強化及び大学の国際競争力の向上と、②財政支援期間終了後を見据えた**財源確保**の2つの観点から評価を行う。

4. 経費（補助金等）の使用状況

経費（補助金等）が適切かつ効果的に使用されたか、投入された補助金額に比して十分な取組が行われたか、及び**自走化の進捗状況を評価する**という観点から考慮する。

II. 総括評価

「I. 項目別評価」における評価結果を踏まえ、各事業の**実績の全体**について評価を行う。

（※）用語の意味

- ・アウトプット：アクティビティによる活動実績
- ・アウトカム：アウトプットがもたらす状況の変化、人の行動変容、その他成果
- ・ロジックモデル：各大学の構想（事業目的）の実現に至るまでの因果関係の仮説を体系的に図示したモデル図。

インパクト

日本の大学において、

- 世界を舞台に活躍できる人材、我が国の安全保障・外交政策に資する人材、日本経済を牽引・発展させる、イノベータータイプで付加価値を持った人材の輩出
- 各分野における世界第一線の研究に基づく技術革新
- 世界中から優秀な留学生が集い、人材のハブが形成され、我が国の国際化が進展

構想の実現

高度な頭脳循環・優れた人材育成の基盤整備

「日本の大学」から「世界の大学」へ

中・長期アウトカム

大学の**体質改善**による**組織文化の変化**

大学の**国際競争力強化**

高等教育の**国際通用性の向上**

国際化を先導するグローバル大学を日本に創設

- 外国人教員・留学生の受け入れ環境整備
- 日本人学生のグローバル対応力強化（語学力、国際感覚・教養）
- 国際交流・研究ネットワークの構築・拡大（共同学位の授与等）

「3. 自走化」で評価

補助金終了後の自走化

SGUの成果普及

SGU以外の大学

SGUの成果を踏まえ、各大学の特性・事情を踏まえ国際化

「1. 取組状況」で包括的に評価

アクティビティ

- ① 教育・事務組織の再編
- ② 学内規程等の見直し
- ③ 教育プログラムの構築・実施
- ④ 海外大学のガバナンス・マネジメント等の事例調査
- ⑤ 研修（語学、FD、SD等）
- ⑥ 外国語による広報、情報提供
- ⑦ 多様な国籍の教員による授業の実施
- ⑧ シンポジウムの開催
- ⑨ 海外大学との連携協定

アウトプット

徹底した大学改革と国際化

- A 国際化関連
 - 多様性（①⑦⑨）
 - 流動性（①③⑦⑧⑨）
 - 留学支援体制（①③④⑤⑥⑨）
 - 語学力関係（③⑤⑥⑦）
 - 教学システムの国際通用性（②③⑦⑧⑨）
 - 柔軟な学事暦（②④⑥⑨）
- B ガバナンス改革関連
 - 年俸制の導入（②④）
 - 国際通用性を見据えた採用と研修（①④⑤⑥）
 - 事務職員の高制度化への取組（①④⑤）
- C 教育の改革的取組
 - ナンバリング（②④）
 - シラバスの英語化（⑥⑨）
 - 英語民間試験の学部入試への活用（②）

初期アウトカム

ガバナンス（B）

- ・国際化のための学内意識の醸成
- ・国際化推進にプライオリティをおいた意思決定

組織（A、B）

- ・SGU採択校としてのブランド化の進展
- ・キャンパスの国際化
- ・人事、教務システムの整備
- ・事務職員の高制度化
- ・外部資金・寄附金等の獲得による自走化の進展

教育・研究（A、C）

- ・教職員の多様化
- ・学生の流動性の向上（日本人学生の留学、外国人留学生の受け入れ、大学間学生交流）
- ・留学支援体制の構築・強化
- ・国際化に対応した学事暦の柔軟化
- ・質を伴った国際共同学位プログラムの展開（ジョイントディグリー等の開設）

「2. 目標の達成状況」で、アクティビティ・アウトプットとアウトカムの繋がりを評価

※上図は事業全体のロジックモデルであり、アクティビティやアウトプットは例示である。